

令和 6 年 3 月 22 日  
一般社団法人日本トンネル技術協会

JTA 表彰(令和 6 年度表彰)の受賞者(功績賞、功労賞)を決定しましたのでお知らせします。

一般社団法人日本トンネル技術協会(会長 菊川 滋)は、令和 3 年度から、トンネル技術や本会の発展に特別の功績、功労があった方々(個人、団体)を表彰しています。

今般、令和 6 年度表彰の受賞者を以下のとおり決定しました(業績及び授賞理由は、別紙参照)。

受賞者は、令和 6 年 6 月 6 日(木)に開催する本会定時総会(会場:主婦会館プラザエフ)において表彰します。

(敬称略)

#### 功績賞 3 名

- |       |  |
|-------|--|
| 西村 和夫 | 技術基準等の整備を通じて、日本のトンネル事業全般(建設から保全までの合理化、適正化に最新の知見で貢献した功績       |
| 中川 浩二 | 「臨床トンネル工学」を提唱し、山岳トンネルの合理的な建設に関する総合的な技術発展に寄与した功績              |
| 亀岡 美友 | 長年にわたり山岳トンネルの設計・施工技術検討などの各種委員会に幹事長、委員として参画し、トンネル技術の発展に貢献した功績 |

#### 功労賞 2 名

- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| 宮本 雅文                       | トンネル技術の発展・伝承に貢献し、日本トンネル技術協会役員を長年務めた功労             |
| トンネル技術者のための「地相」判読技術普及活動グループ | JTA 会員に向けたトンネル工事における地形・地質技術の重要性の理解と普及に向けた活動に関する功労 |

#### 《制度の概要》

一般社団法人日本トンネル技術協会(会長 菊川 滋)では、令和元年度に策定した「JTA ビジョン」を踏まえ、令和 3 年度に「表彰制度」を設け、トンネル技術の発展に特に顕著な功績があったと認められる会員等に「功績賞」を、また本会の発展に特別の功労のあった会員等に「功労賞」を授与しています。

#### 《選考の経緯》

令和 5 年 11 月 10 日から令和 6 年 1 月 31 日までの期間、令和 6 年度表彰の推薦を受け付けたところ、功績賞 3 件、功労賞 2 件の推薦がありました。

推薦内容に関して、本会理事会で慎重に選考を行った結果、今般、功績賞 3 名、功労賞 2 名の受賞者を決定しました。受賞者の概要は、別紙のとおりです。

#### 【問合せ先】

〒104-0045 東京都中央区築地 2-11-26 築地 MK ビル 6 階  
一般社団法人日本トンネル技術協会 表彰事務局(時政)  
TEL:03-3524-1755 FAX:03-5148-3655 Email:hyosyo@japan-tunnel.org

別 紙

令和 6 年度 JTA 表彰の受賞者(功績賞、功労賞)の概要

功績賞 3 名

表彰者(敬称略)	業 績 (授賞理由)
<p>西村 和夫 (東京都立大学名誉教授)</p>	<p>技術基準等の整備を通じて、日本のトンネル事業全般(建設から保全まで)の合理化、適正化に最新の知見で貢献した功績</p> <p>受賞者は、トンネル全般に関する多くの知識を有し、永年、最新の知見で日本のトンネル事業の設計、施工、維持管理の合理化、効率化に多大な貢献をしてきた。</p> <p>トンネルの建設に関する研究のみならず、近年では、トンネル点検や更新、長寿命化に関する研究まで、常に時代の要求に合わせた有用な研究を行うとともに、これまで、国土交通省、文部科学省、東京都、鉄道・運輸機構、東日本高速道路、中日本高速道路、高速道路総合技術研究所、首都高速道路、土木学会等々の多数の審議会、委員会等に委員長、委員として参加し、技術基準の整備のほか、多くの事業の進捗に貢献してきている。</p>
<p>中川 浩二 (山口大学名誉教授)</p>	<p>「臨床トンネル工学」を提唱し、山岳トンネルの合理的な建設に関する総合的な技術発展に寄与した功績</p> <p>受賞者は、山岳トンネルの合理的な施工技術の研究を行うとともに、地方公共団体や建設会社、コンサルタント会社のトンネル建設現場の技術者育成に努めてきた。</p> <p>また、「臨床トンネル工学研究所」を設立し、15 年以上理事長として活動し、西日本を中心に、国土交通省、地方自治体、高速道路会社等のトンネル建設および維持管理に関するアドバイザーとして、毎月 50 切羽以上のトンネル現場を巡回・指導するとともに、トンネルの施工報告収集に尽力し、西日本を中心に 500 編以上のトンネル施工記録を報告書として集積・電子化し、各トンネルの地質、設計支保パターン、実施支保パターン等を記載して実務にあたるトンネル技術者に役立つデータベースとするなどの活動を通じて、山岳トンネル技術の向上や人材育成に貢献してきた。</p>
<p>亀岡 美友 (株式会社熊谷組技術顧問、元施工技術総合研究所)</p>	<p>長年にわたり山岳トンネルの設計・施工技術検討などの各種委員会に幹事長、委員として参画し、トンネル技術の発展に貢献した功績</p> <p>受賞者は、日本トンネル技術協会をはじめ、土木学会やトンネル事業者の技術検討委員会に長年にわたり幅広く参画し、山岳トンネルの NATM 導入期より本協会を通じたトンネル設計・施工方法の指導、山岳トンネルのメカニズム解明と展開、庄戸トンネル等の難条件下における山岳トンネルの設計・施工方法の委員会での対応などを通じて、山岳トンネル技術の向上に貢献してきた。</p>

功労賞 2名

表彰者(敬称略)	業績(授賞理由)
宮本 雅文 (元佐藤工業㈱)	トンネル技術の発展・伝承に貢献し、日本トンネル技術協会役員を長年務めた功労
	受賞者は、土木技術者として数多くの山岳トンネルを含む地下工事に従事してトンネル技術の発展と社会インフラ整備に貢献してきた。さらに所属する建設会社のトップとして、社内外にトンネル技術の展開に努め、技術の発展・伝承に貢献した。 それらの知見をもって、平成23年6月から令和4年6月までの11年の長きにわたって、日本トンネル技術協会の役員を務め、協会とトンネル技術の発展に貢献してきた。
トンネル技術者のための「地相」判読技術普及活動グループ (代表者:大島洋志、木谷日出男)	JTA 会員に向けたトンネル工事における地形・地質技術の重要性の理解と普及に向けた活動に関する功労
	受賞者のグループは、トンネル工事で生じる各種の地形・地質に関わる課題を様々な地形種ごとの特徴(地相)として地形図から判読、抽出する基礎的知識をJTA 会員に広く普及することを目的に、協会誌「トンネルと地下」の連載講座として2012年5月号から計15回にわたって記事を掲載し、またその内容を盛り込んだ専門図書を刊行するとともに、JTA で4回の講習会を開催し、JTA 会員が地形・地質の重要性を認識し、その知識を習得する一連の活動を実施するなど、JTA の活動に大きく貢献した。